

【資料】

平成26年度 林業研究・技術開発推進

北海道ブロック会議育種分科会

上田 雄介¹

平成26年度林業研究・技術開発推進北海道ブロック会議育種分科会は、9月25日に札幌市内のかでる2・7において開催された。会議には、林野庁、北海道森林管理局、北海道庁、北海道立総合研究機構林業試験場、同林産試験場、森林総研北海道支所及び関係機関から40名が出席した。

会議の概要は次のとおりである。

育種事業の最近の動向

林野庁から林木育種事業を巡る最近の動向として、苗木安定供給推進事業、改正された間伐特措法に基づく特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本方針の策定についての説明があった。

林木育種センターからは、開発品種の普及促進等について説明があった。

次世代精英樹及び特定母樹に関連した北海道地区の取り組み

第4回北海道地区高速育種運営会議に相当する議事として北海道育種場から、特定間伐等及び特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本方針の概要の説明、特定母樹の配布にかかる北海道育種場・北海道・認定特定増殖事業者の関係について、第2世代精英樹と優良木の選抜状況、原種の増殖・配布計画、第2世代精英樹の採種園造成についての説明があった。

また、北海道庁から、特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本方針の策定状況と、特定増殖事業を反映した採種園整備の考え方について説明があった。

平成25年度事業実績及び平成26年度計画

林木育種事業に関して、精英樹の選抜状況、採種園の造成・廃止及び管理、次代検定林調査、育種種子の生産と利用状況等について、それぞれ平成25年度の実績と平

成26年度の計画を報告した。また、平成26年春期の国有林採種園及び道有林採種園の着花(果)状況について報告した。

平成26年度育種事業・研究の概要と成果トピックス

北海道育種場から、森林総合研究所の第三期中期計画に基づいて、平成26年度に取り組む「林木の新品種の開発」、「林木の育種技術の開発」、「林木のジーンバンク事業」の計画及び「種苗の生産及び配布」の5カ年計画について説明をした。トピックスとして、間伐によるカラマツ採種園の着果促進効果について紹介した。

また、北海道立総合研究機構林業試験場より、今年度の研究概要についての説明と、トピックスとして、カラマツ類の効率的な着果促進法の検討についての紹介があった。

提案・要望事項

北海道山林種苗協同組合や北海道庁から、間伐特措法の特定母樹については現在指定されているグイマツに加え、北海道の主要な造林樹種であるカラマツ、トドマツ、アカエゾマツの開発、原種については採種園造成のニーズに対応した安定供給の確保、公営採種園の整備促進と支援、採種園の着花促進技術の開発と技術指導等を求める要望が出された。

情報提供・その他

北海道育種場からは、平成26年9月1日～2日に開催された第52回北海道林木育種現地研究会の概要についての報告と、国有林採種園における取り組みについての説明があった。

また、北海道立総合研究機構林業試験場からは林業用優良種子の安定確保に向けた採種園整備指針の策定について紹介があった。

¹ うえだ ゆうすけ 森林総合研究所林木育種センター北海道育種場